

Lessons from Past Crisis Experience and Its Lessons to Asia

---Banking Behavior and Asset Bubble---

慶応義塾大学 吉野 直行
金融庁 中村 友哉
金融庁 境 吉隆

本論文の目的は、まず第一に、日本のバブル、米国のバブル行動を比較し、金融政策による過剰流動性の供給、資産価格の高騰という類似点とその相違点をデータを用いて分析する。つぎに、バブルの3つの指標を提示する。

(i)銀行の全体の貸出に占める不動産・住宅向け貸出の比率

(ii)不動産・住宅向け貸出の伸び率と経済成長率の比較

(iii)住宅価格と所得の比率

実証データによる日米の比較と、理論分析から、バブルの可能性を示す指標について提示を行う。

第3には、日米の銀行行動の違いを実証分析する。(i)金融政策が銀行行動に与えて影響、(ii)不動産価格の高騰とその後の下落が銀行行動に及ぼした影響、他の銀行行動が当該銀行の貸出行動の与えた影響、(iii)BISの自己資本比率規制の影響など、さまざまな効果について、日米の比較を行う。

以上の分析を踏まえ、銀行行動に対する規制の在り方、金融政策の対応について、政策提言を行う。